歴史をつくる

2021年のオンリーウォッチ・チャリティー・オークション（隔年開催）に
パテック フィリップが出品したタイムピースは、歴史的出自と最先端の時計製作を統合して
創作された、驚異的な作品であった。この製作にまつわる物語は楽しく、魅力に溢れている。

文 ニコラス・フォークス

通常、パテック フィリップを形容するのにディスラプター（破壊者）という語は当てはまらない。しかし2021年を振り返り、ティエリー・スターンが下した一連の決定について少し考えてみよう。先ず彼はインライン表示永久カレンダー5236Pモデル、およびフォルティッシモ「ff」増幅モジュールを導入した「アドバンストリサーチ」ミニット・リピーター5750Pモデルという、これまでパテック フィリップを著名にしてきた種類のタイムピースを発表した。これらは同社から予想しうる種類の驚きであった。しかし2021年のパテック フィリップは、より予想外の驚きによって記憶される可能性が高い。伝統的な時計製作技術とノウハウの保護者であるブランドが、同じくらい破壊者でもあったことの驚きがそれである。世界で最も追い求められる、ノーチラス5711モデルが終了し、オリーブグリーン文字盤のお別れバージョンが発表された。そして最終モデルは、米国の宝飾店ティファニーとパテック フィリップのパートナーシップ170年を記念する、Tiffany Blue®文字盤を配した170本の限定シリーズであった。また自動巻ムーブメントが好まれる現今にもかかわらず、新しい手巻カラトラバ6119モデルを発表したことも忘れることはできない。

だがおそらく最も予想されていなかったのは、デュシェンヌ型筋ジストロフィーの研究を支援するため、隔年のチャリティー・オークション、オンリーウォッチにおいてパテック フィリップが販売したタイムピースであった。ノーチラスや、2019年に驚異的な3100万スイスフラン（約3110万米ドル）で落札されたグランド・コンプリケーション、グランドマスター・チャイムなどのユニークピースを期待していた人々は、パテック フィリップが木目張りケース、楔形のペーパーウェイト・デスククロックを出品したことに困惑した。しかしパテック フィリップの歴史に通暁した人であれば、その先駆性から同社の最も重要な創作品のひとつとされるタイムピースをすぐに連想したであろう。1920年代は、会社が創業者の子孫によって所有・経営されていた最後の10年間であった。それはまた、ブランドの最も著名な顧客であった2人のコレクターが活動の頂点にあった10年間でもあった。その2人とは、発明家、技師、そして同名の自動車メーカー所有者ジェームズ・ウォード・パッカード、およびニューヨーク名門金融家の御曹司ヘンリー・グレーブス・ジュニアである。

第一次世界大戦と大恐慌の間の短い黄金時代の間にこれら2人のコレクターのために製作された無数の傑作の中に、イエローゴールドとシルバー仕様、永久カレンダー・ムーンフェイズ搭載の楔形デスククロック（パテック フィリップ・ミュージアム所蔵Inv・P・140）があり、これは1923年にパッカードに納入された。またほぼ同一の別のモデルが1927年、ティファニーによってヘンリー・グレーブス・ジュニアに販売されている（同Inv・P・1270）。2021年、市場に現れた最も破壊的なタイムピースは、1世紀前のデザインを踏襲して製作されたものだったのである。「2020年代の初めに、ある意味で完全に時代遅れのタイムピースを出すのはきわめて興味深いことです。なぜなら、これは今日、人々が期待しているものではないからです」とティエリー・スターンは語る。

予想外の作品だったかもしれないが、デスククロック27001M・001モデルは950万スイスフラン（約1050万米ドル）で落札された。ティエリー・スターンによると、購入した人は、誰であれ、真の掘り出し物を手に入れたことになる。「将来、このクロックはきわめて高価になると確信しています」と彼は語り、手で急激な上

オンリーウォッチ・デスククロック（60〜62ページ）のデザインは、ほぼ1世紀前、ジェームズ・ウォード・パッカードのために製作されたデスククロック（63ページ）からインスピレーションを得ている。新しいクロックのケースはシルバー製で、パッカードの故郷にちなんだアメリカン・ウォールナットの化粧板に覆われている。シルバー金めっきの装飾モチーフには、カラトラバ十字を縁取るアカンサスの葉、バラ形飾り、および大ハゲタカをかたどった4つのケース脚がある。指針は、パッカード・デスククロックに合わせたブルー仕上げスチール製である。

「このクロックは本当にユニークです。
私は真の時計製作について
何年にもわたって学んだすべてを
ここに投入しました。」

昇曲線を描いてみせる。「これは本当にユニークな作品です。自社ムーブメントを搭載しており、今日では誰もこのようなものはつくりません。私は真の時計製作について何年にもわたって学んだすべてをここに投入しました。このタイプのデスククロックを保存していくことが重要です。これは私たちのDNAの一部なのです」

レギュレーター・タイプの文字盤と文字盤外周の週番号目盛（1923年のパッカード・クロックでは日付目盛）により、21世紀のクロックと、その前身であるパッカードの外観はきわめて類似している。しかしシルバー、シルバー金めっき、ウォールナットによる外装の下では、まったく異なるムーブメントが駆動している。

1920年代、パテック フィリップは2つの香箱、直線レバー脱進機、8日間のパワーリザーブを備えた8日巻懐中時計のムーブメントを効果的に再利用した。今回、ティエリーは一から製作したいと考えた。それは7年の歳月と9件の技術特許を要する、部品総数919個のムーブメントの完成に向けた旅の始まりであった。レクタングラー型キャリバー86-135 PENDIRM QSEには3個の香箱が直列に連結されており、クロックは、注目に値する日差最大±1秒の精度で31日間連続駆動する。その意味するところは完璧な製作、組立て、調整、そして約1000個の部品のコーディネーションにより、1日を構成する8万6400秒のうちの1秒以内の精度を維持するということである。

ティエリー・スターンの時計製作に関する全知識を包括するこのオブジェを納入する使命を与えられた男は、ブランドの研究開発責任者であるフィリップ・バラであった。「何年もの間、ティエリー・スターンは、パッカード・デスククロックのようなクロックを製作したいと話していました。しかし私は『スターン社長、これは私たちには向いていません』と言うのが常でした。誰も乗り気ではありませんでしたが、彼は諦めませんでした。」そしてついにバラは挑戦することに同意した。

「当初のアイデアは、8日毎に機械式ムーブメントを電池駆動のモーターで巻き上げるというドーム・テーブルクロックの原理を採用することでした」とバラは語る。「しかし時計師のひとりが、このような驚異的なムーブメントは、全機械式にしなければもったいない、と主張したのです。ティエリーは納得しましたが、『でも8日のパワーリザーブではだめだ。1か月必要だ。31日がいい』と指示しました。私はデスククロックの精度はあまりよくないのではないかと心配していましたが、ティエリーは、1か月を通して日差±1秒を達成したいと考えていました」とバラは苦笑する。エネルギー消費を最小限に抑え、31日間にわたって信頼性を確保するように設計が行われた。「それがムーブメントのために9件の特許技術を開発した理由でした。」これらの特許には、メインレバーが作動していない間、エネルギーを節約するためにレバーの動きを制限する機構、永久カレンダーのエネルギー消費を削減するために最適化された停止爪、3個の香箱すべての完璧な回転と平面性を保証するラチェット機構、両端の香箱とこれらと反対方向に回転する中間の香箱の組み合わせにより、両方向に回転する香箱システムがある。

1か月にわたって精度のレベルを維持するには、安定した振り角が重要である。これは、ぜんまいがいっぱいに巻き上げられてから最終日までの全期間にわたり、テンプの振り角を安定させる特許取得の定力機構によって保証されている。また、パワーリザーブは31日経過するとゼロに達するが、特許取得の弾性を持たせたパワーリザーブ表示ストッパーおよび輪列との接続により、車の予備タンクのようにムーブメントは駆動を続けることができる。このプロジェクト最大の課題は何かと問われたティエリーは、愛情を込めた微笑を浮かべて答える。「父を説得することでした。でもオークションでの落札価格を見ると、私たちの考えは人々の同意を得ることができたようです。もちろん、私は1点の時計のためだけにムーブメントを開発したわけではありません。少量生産のシリーズはあるでしょう。次の時計がいつできるかは分かりませんが、成功することを願っています。」

しかし今のところ、ティエリーはオンリーウォッチに出品した時計に満足している。彼の悩みはひとつだけである。「実を言うと、私はこの種のオークションに出品したくない。タイムピースを手放したくないのです…。」 ◆

［当見開きページ］
（中央）ヒンジ付カバーを開くと、メカニカル・ダッシュボードが現れる。文字盤の下には、5つの調整ボタンが配置されている。これらの調整ボタンを弧状に配置するためには、中間車による複雑な機械的システムが必要であった。左から順に週（W）、曜日（D）、ムーンフェイズ（三日月）、月（M）、日付（C）を調整する。
右上隅には、時刻調整と巻き上げ用の2つの鍵穴がある。左上隅には、くぼみの中に鍵が保持されている。
（右、上から下へ）クロックのカバーに配した、アカンサスの葉に縁取られたパテック フィリップのカラトラバ十字／巻き上げと調整用の鍵をくぼみの中からプッシュアップする革新的なシステムは、特許により保護されている／新しいクロックの有用な追加機能、ウィークリー・カレンダーは、文字盤外周の目盛に沿って小さなフレームが移動することにより週番号を表示する／最下部の鍵穴は、鍵を用いてムーブメントのストップ・リスタートを行う。このストップセコンド機能により、秒単位の精度で時刻を設定することができる。
（左）1923年のパッカード・デスククロックは、ケースにモノグラムを配している。ジュネーブのパテック フィリップ・ミュージアム所蔵（Inv. P-140）。